

動労千葉を支援する会

ニュース

2026.3.19
415

動労千葉を支援する会事務局

千葉市中央区要町2-18 DCC会館

〒047-2202 782200

メールアドレス info@doro-shien.site

〒0150131 920336

動労千葉 26春闘 ダイ改闘争

3・14第1波スト、3・16第2波闘争闘う

4・1人事・賃金制度改悪粉碎

機能保全外注化阻止ストへ



動労千葉は第1波スト(3/14)、第2波闘争(3/16)を闘いました。次の闘いは4月1日の人事・賃金制度改悪と機能保全業務の外注化を阻止するストです。

機能保全外注化は、千葉では京葉車両センターで5日勤分の業務が外注化されようとしています。

しかし、すでに外注化の矛盾はこの間の信じがたい重大事故の続発で示されています。外注化が技術継承と安全の崩壊をもたらしているのです。

社長自身が「外注化は破たん」と言

いながらさらに外注化するなど、どこまで現場と鉄道業務をないがしろにするのかという話です。

人事・賃金制度改悪は、何より乗務手当廃止という許しがたい攻撃です。本当にふざけている!

乗務手当廃止と労働時間10分延長には、会社が鉄道業務をどこまで軽視しているかが表れています。現場からの怒りの声は当然です! 会社の好き勝手なこれをこれ以上許すことはできません。

【4月1日の行動方針】

京葉車両センター門前抗議行動

8時〜 京葉車両センター門前

CTS本社抗議行動

10時〜 CTS本社前

春闘第一波 派出化弾劾！元に戻せ！

千葉機関区門前に70名、怒りの抗議闘争

動労千葉は3月14日、「ダイ改・合理化粉碎！ 千葉機関区の派出化弾劾！ 機能保全外注化阻止」を焦点に春闘第一波闘争に立ち上がった。14日始業から関委員長、渡辺書記長は指名ストライキに突入し、ストを貫徹した。

機関区前に大結集

午後1時、組合員・支援の仲間が機関区前に結集し、その数70名。門内には管理者が弾圧体制を取っており参加者の怒りは高まる。

樋口執行委員の進行で抗議行動が始まり、千葉機関区支部の三本支部長があいさつ、本部からは関委員長が貨物会社を徹底弾劾した。続いて貨物協議会・佐藤議長が機関区廃止（派出化）、要員削減、当局の恣意的な雇用延長の経過を報告し、「今日は怒りを新たにす

る日。機関区復活へ闘いを強化しよう」と呼びかけた。

結集した支部組合員・OBから怒りの発言が続いた。「みんなの力で守り、作ってきた職場。無理やりな廃止は、

ただただ動労千葉を潰すためのものだ」

「雇用は労働者にとつて最も重要な問題。少なくともその同期は平等に機会が与えられなければならない」「派出になり、ひどくなる一方だ。内勤が目の前にいるのにテレビ点呼だし、連絡体制が全然できておらず、いつ機関車が入ってくるかも分からない。出先ですと待たされたり、無駄な仕事は増え、人は減らされ、寝る時間も減らされて本当に困っている」「こんな状況では安全は守れない」「こんなに皆さんに集まってもらって熱気がある集会になった。今後も粘り強く闘おう」

幕張支部長と支援の仲間が連帯アピールを行い、最後にシュプレヒコールをあげて門前抗議行動を終えた。

総決起集会に120人

DC会館に移動して、午後3時から「スト貫徹！動労千葉総決起集会」を開催した。会場いっぱい120人が集まった。

最初にストに立った関委員長が主催



者あいさつを行い、アメリカとイスラエルによるイラン攻撃を怒りを込めて徹底弾劾、「今こそ労働組合の闘いが問われている」と訴えた。

三里塚芝山連合空港反対同盟の伊藤信晴さん、久留里線と地域を守る会の三浦久吉さん、支援する会の織田陽介さん、家族会の佐藤会長が連帯のあい

さつを行った。

4・1外注化阻止へ

同じくストに立った渡辺書記長が基調報告を行った。今春闘全体の課題を提起し、とりわけ相次ぐ架線事故を始めとする重大事故の続発、喜勢社長自



身が「外注化のスキームは破綻している」と自認しているにも関わらず、さらなる外注化に突き進む会社の姿勢を弾劾した。そして、久留里線廃線決定に対する3・16君津市抗議行動、4・1機能保全外注化阻止への決起を訴えた。

佐野執行委員が「26反戦春闘勝利・3月ダイ改阻止ストライキ反戦声明」を読み上げ、最後に、中村副委員長がまとめと第2波・第3波闘争への決起を訴え、団結ガンバローを行い集会を締めくくった。

千葉機関区派出化撤回を！

貨物輸送の重要拠点である千葉機関区は、昨年ダイ改で希望者や新採の配置による存続を訴えたにも関わらず派出化が強行された。昨年の内外勤の統合・要員合理化から、今ダイ改でさらに1名削減という許しがたい攻撃がかけられている。

JR貨物は、動労千葉の組織拡大をさせないためだけに、一貫して新採の配置や千葉機関区への希望者の異動を拒否する異常な労務政策を続けてきた。いよいよ業務を維持する人も確保できなくなりながら、都合よく選別して65歳以降の雇用延長を行っている。希望者全員の雇用継続を行わないこと自体が許しがたい。

泣く泣く辞めていかざるを得なかった仲間たちの悔しさもむねに、改めて機関区廃止・派出化撤回、要員合理化撤回を実現しなければならない。



千葉機関区支部

久留里線の存続を求める 3・16君津集会デモが大成功！



君津市役所へデモ

「今日の集会から新たな闘いが始まる」
久留里線の会・三浦代表が檄！

表があいさつを行い、「JRが3月9日に久留里〜上総亀山間の廃線申請を提出した。住民の声を無視するものであり、絶対に許せない。われわれはあきらめることなく廃線申請の撤回と久留里線の存続を求めて闘いぬく。今日の集会とデモは、新たな闘いが始まったことを示すものだ」と檄を飛ばし、今後も闘い続けることを宣言した。

亀山地区からの参加者から、怒りの訴えが行われた。（別項）

内房線の会・梅澤代表は「JRが廃線申請をしたことは許せない。久留里線の問題は内房線に直接影響する問題だ」と訴え、外房線の会・早川会長は「いすみ郡市の首長と懇談を続け、鉄道の重要性を訴えてきた」とこの間の自治体との懇談の重要性などを訴えた。かずさ住民の足を守る会の代表からは、「JRは18年で20億円を出すと云っているが、バス運行や展望を含め何も明らかになっていない」として、JRと君津市の対応を弾劾した。さらに亀山



君津市・弁天公園

地区の住民や袖ヶ浦市在住の市民からの発言を受け、集会参加者は、君津市役所に向けてデモ行進を行った。デモ行進では、「久留里線の廃線を許さないぞ！」「JRは公共交通の使命を果たせ！」「国はJRの廃線申請を認める

3月16日、久留里線と地域を守る会は、君津市・弁天公園において、「久留里線の存続を求める3・16君津集会」を開催し、JR東日本が久留里線・久留里〜上総亀山間の廃線届の申請を行ったことに対して徹底的に抗議し、あくまでも申請の撤回と久留里線の存続を求めて闘い続けることを訴えた。

集会は、最初に久留里の会・三浦代



総括集会

な！」「市長は住民に説明しろ！」の声を響かせた。

デモ行進後、君津市長に対して、要請団により「久留里線の存続を求める要請書」が提出された。

そして、市役所に隣接する生涯学習センターにおいて総括集会を行った。要請団を代表して三浦会長から「集会・デモをとおしてわれわれの決意を伝えたい」と語り、ローカル線に関するイ

亀山地区からの参加者の怒りの訴え

昨年の秋、亀山地区で路線の存続を願うアンケートを実施したところ、7割以上の住民が「存続してほしい」と回答しました。それに基づき、廃止反対の署名を集めて君津市役所に提出しに行きました。

地域を代表して署名を持って行ったにもかかわらず、対応したのは課長補佐クラスの方で、受け取り場所も受付カウンターでした。マスコミ対応の際も、自分たちで場所を設定しなければならない状況でした。以前、別の会が署名を持っていった際は市長が出てきたことと比較しても、現在の久留里線問題に対する市の対応は極めて残念なものです。

市長は「地域との対話が政治家としての使命」だと議会でも述べていますが、この久留里線に関する説明会に自ら出席したことはなく、地域住民の意見を直接聞いたこともありません。住民と接することなく、簡単にバス転換を容認してしまったのは、対話ではなく「完全無視」ではないでしょうか。

議員に説明する際、「これは市が決めたのではなくJRが決めたこと。どうしようもない」という答弁がなされますが、それは責任逃れに感じられます。一番の責任は、JRからバス転換の要望があった際、「住民や議会と十分に話し合ってから返答する」と言わずに、すぐに容認してしまった市長にあると考えています。

10年後の地元を思うと非常に残念で、このままでは地域が廃れていってしまうという強い懸念があります。久留里線の廃線が他の地域へ波及しないよう、皆さんと力を合わせて止めていきたいと考えています。

ンターネット交流会を主催する日本大学の桜井徹名誉教授や地域で活動する人士からの発言を受け、3・16君津集

会とデモ行進は大成功をおさめた。久留里線の廃線申請撤回へ闘いぬこう！

反戦声明

アメリカ・イスラエルによる残酷なイラン侵略を徹底弾劾する。女子小学校への爆撃と児童の虐殺など、すでに1千人を超えるイランの労働者人民を虐殺し、今なお殺し続けている。トランプは、この攻撃を「国際法に則った正当な行為」とごまかすことさえしていない。「私には国際法は必要ない」と自ら語った通りに、帝国主義の姿を完全にむき出しにし、次々と軍事侵攻を強行している。それは、今年の冒頭のベネズエラ侵略・大統領夫妻拉致と同じく、中国を

経済的、政治的、軍事的に包囲することを最大の焦点にした、対中国の侵略戦争・世界戦争として遂行されている。トランプは中東から世界を大混乱にしようとも、すべてを戦争へと引きずり込み、アメリカの「力」の下にひれ伏させようとしている。

衆院総選挙で「圧勝」した高市政権は、このトランプと完全に一体となり、連動して動いている。現に高市は、核保有国である米・イスラエルが一方的に侵略を開始したことは一言も批判せず、逆に反撃したイラ

ンに対して「核保有は許されない」「イランの行動を非難する」と語っている。そして、改憲、大軍拡、スパイ防止法制定、戦時経済化へと突き進み、中国への侵略戦争を「自らの戦争」として担おうとしている。3月19日に予定されている日米首脳会談は、これまでの次元を超えた大軍拡の合意から、すべてを戦争へと注ぎ込んでいく転換点となるうとしている。

同時に、「外への侵略戦争」と一体で「内なる階級戦争」が仕掛けられている。労働組合を根本から否定・一掃しようという戦後労働法制の歴史的な転換攻撃だ。それは、労働者の権利を「労基法以前」にまで解体し、労働力を含めた「すべての国力を戦争へ」という攻撃だ。ここには、国鉄分割・民営化にかけた敵階級の意思が、次元の違う攻撃として形を変えながら貫かれている。われわれは鉄道労働者として、国鉄分割・民営化と対決して抜いてきた労働組合として、この攻撃とも断固対決する。

JR東日本では信じがたい重大事故が続発している。しかし、さらなる鉄道業務の丸投げ外注化を進め、退職金を廃止し、定期昇給を廃止し、「事業場」まで解体し、ローカル線を廃止し、労働組合を徹底的に解体して「社友会」に置き換えようとしている。こうした形でこの攻撃をJR東日本が推進しているのだ。これに対して、われわれは本日から4・

1に向けて3波の闘争を構えて闘いにたちあがる。

戦時下における激しい物価高は進行し、30年以上に渡る新自由主義攻撃は社会の底が抜けたような崩壊をもたらしている。その中で高市政権は生活をなぎ倒してでも戦争に突進しようとしている。すでに矛盾はいたるところで吹き出し、抑えつけられてきた怒りの声はいよいよ爆発しようとしている。

鉄道を戦争のために使わせるわけにはいかない。そして、アメリカ帝国主義自身が「国際秩序」を容赦なく暴力的に破壊し、三度目の世界戦争が現実になれようとしている。その中で、世界中の労働者人民が闘いに立ち上がっている。われわれはこの戦争を阻止すべく、侵略の最中にあるイランの労働者民衆、不屈の抵抗を続けるパレスチナ人民、圧政に苦しむアジア、世界の民衆と連帯し、力を合わせて戦争反対の闘いにたちあがる。

本日ストライキにたちあがり、イラン侵略戦争弾劾、対中国の侵略戦争・世界戦争阻止、高市政権打倒へ、全国の労働者がともに闘いに立ち上がることを呼びかける。

2026年3月14日

国鉄千葉動力車労働組合